

機会あるごとに平和について考えよう

8月6日に臨時の放送全校集会をしたことを覚えていますか。75年も前にヒロシマに原爆が落とされたことを忘れず、犠牲になった方を悼み、平和を祈念する「原爆の日」でした。

きょう12月8日は、79年前に太平洋戦争(大東亜戦争)が始まった日です。世界は、すでにヨーロッパを中心に第二次世界大戦に突入していましたし、日本も中国と戦争をしていましたから、さらに太平洋や東南アジアを舞台に恐ろしい戦争が拡大したということになります。多くの国々で未来ある子どもたちもふくめ、たくさんの人々が戦争の犠牲になりました。

終戦をむかえる半年ほど前になると大阪にもたくさんの爆撃機が飛来する大空襲がたびたびありました。(6年生のみなさんは、先月18日に行った「ピースおおさか」の社会見学で学びましたね。)沖縄でもアメリカ・イギリスからの激しい攻撃があり、そしてヒロシマ、ナガサキに原爆まで投下されたのです。

私たちの今の生活が、当時の多くの犠牲のうえに成り立っていることは学ばなくてはなりません。今なお世界中のどこかで紛争や争いが続いています。

ヒトというものは、「ここじゃなくて良かった、自分じゃなくて良かった」と考えてしまうもの。でも、そんな考えでいいのでしょうか。とても難しいことですが平和な世界にするためにはどうすればよいかを私たちは考えていなくてはなりません。まずは、私たちの周りのことから気づいていきましょう。たとえば、学級のお友だちがいじわるをされて嫌な思いをしていないでしょうか。人々がお互いに相手の立場に立って考え思いやりのある行動をすることができれば、みんなが、穏やかな気持ちで過ごせますね。